

# 経済・金融 フラッシュ

## 消費者物価(全国08年7月) ～コアCPIは10年半ぶりに2%台の伸び

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎  
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. コアCPI上昇率は10年半ぶりの2%台

総務省が8月29日に公表した消費者物価指数によると、7月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コアCPI）は前年比2.4%となり、上昇率は前月から0.5ポイント拡大した。事前の市場予想（ロイター集計：2.3%、当社予想も2.3%）を若干上回る結果であった。

コアCPIの上昇率が2%台となったのは、98年1月以来、消費税率が引き上げられた97年度を除くと92年12月以来である。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比0.2%（6月：同0.1%）と2ヵ月連続の上昇、総合指数は前年比2.3%（6月：同2.0%）であった。

コアCPIの内訳を見ると、ガソリン価格の前年比上昇率が6月の24.2%から28.7%へと拡大し、コアCPIへの寄与度は6月の0.63%から0.76%へと高まった。値上げの動きが続く食料品（生鮮食品を除く）は6月の前年比3.5%から同3.8%へと高まった。

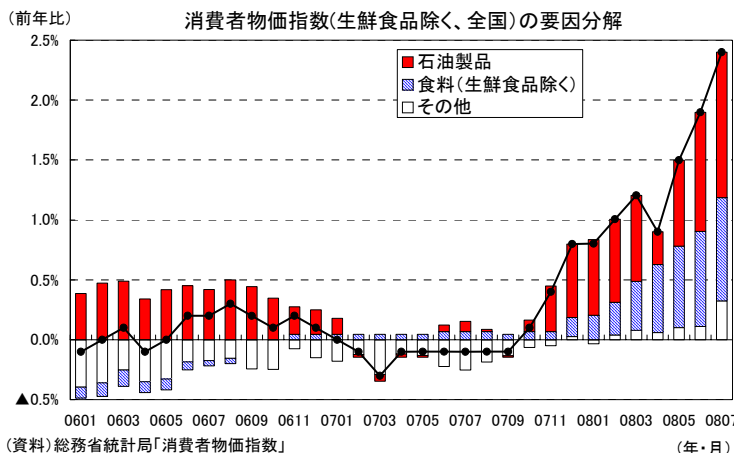
また、1-3月期の燃料価格が反映されたことにより、電気代（6月：前年比3.5%→7月：同5.4%）、都市ガス代（6月：前年比3.0%→7月：同5.9%）の値上げが実施され、光熱・水道の上昇率が大きく高まった（6月：前年比6.8%→7月：同9.3%）。

消費者物価指数の推移

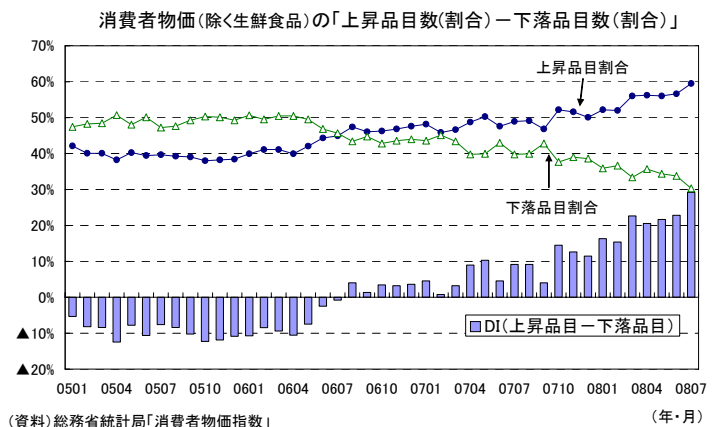
(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
07年 4月	0.0	▲0.1	▲0.2	0.1	0.0	▲0.2
5月	0.0	▲0.1	▲0.3	0.0	0.0	▲0.2
6月	▲0.2	▲0.1	▲0.4	▲0.2	▲0.1	▲0.3
7月	0.0	▲0.1	▲0.5	▲0.1	▲0.1	▲0.3
8月	▲0.2	▲0.1	▲0.2	▲0.3	0.0	▲0.2
9月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3
10月	0.3	0.1	▲0.3	0.1	0.0	▲0.3
11月	0.6	0.4	▲0.1	0.3	0.1	▲0.1
12月	0.7	0.8	▲0.1	0.4	0.3	▲0.1
08年 1月	0.7	0.8	▲0.1	0.3	0.4	0.0
2月	1.0	1.0	▲0.1	0.4	0.4	▲0.1
3月	1.2	1.2	0.1	0.6	0.6	0.1
4月	0.8	0.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0
5月	1.3	1.5	▲0.1	0.9	0.9	0.1
6月	2.0	1.9	0.1	1.5	1.3	0.3
7月	2.3	2.4	0.2	1.6	1.6	0.3
8月	-	-	-	1.3	1.5	0.2

(資料)総務省統計局「消費者物価指数」



消費者物価指数の調査対象 585 品目（生鮮食品を除くと 524 品目）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けると（中間年見直しで追加された 3 品目はカウントせず）、7 月の上昇品目数は 310（生鮮食品を除くベース）と、6 月の 295 品目から大幅に増加した。下落品目数は 158（6 月は 176）となり、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は 29.2%と 6 月の 22.8%から大幅に上昇した。物価上昇の裾野はさらなる広がりを見せている。



## 2. コア CPI は当面 2%台前半の推移が続く見込み

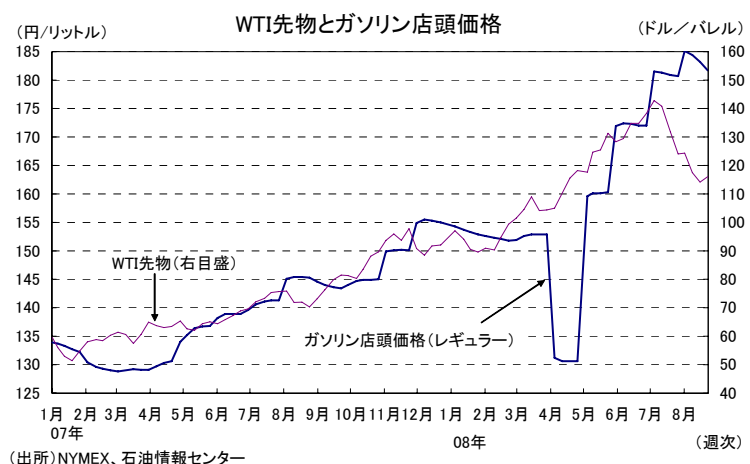
8 月の東京都区部のコア CPI は前年比 1.5%となり、上昇率は前月から 0.1 ポイント縮小した。事前の市場予想（ロイター集計：1.7%、当社予想も 1.7%）を下回る結果であった。

食料品（生鮮食品を除く）は 07 年 12 月以降、上昇幅の拡大が続いてきたが、8 月は前年比 3.4%となり 7 月の同 3.5%から伸びが若干低下した。

ガソリンは前年比 25.8%と引き続き高い伸びとなったが、7 月の同 28.4%に比べれば伸びは鈍化した。7 月中旬に 1 バレル＝140 ドル台後半まで上昇した原油価格（WTI）は、米国をはじめとした世界経済の減速に伴う需要減退観測の高まりなどから、その後下落に転じ、足もとでは 110 ドル台で推移している。原油価格の下落を受けて、石油元売り各社はガソリンの 9 月出荷分の卸値を 1 リットル当たり 5 円程度引き下げる予定である。8/25 時点のガソリン店頭価格は 181.7 円/リットルだが、9 月には 170 円台まで下がることを見込まれる。

今後、原油価格が横ばい圏内で推移すれば、ガソリン価格の前年比上昇率は 7 月（全国 CPI ベースで 28.7%）がピークで、その後は伸び率が徐々に低下していくことが見込まれる。

しかし、食料品の値上げは今後さらに本格化する可能性が高いことに加え、原材料高の影響を直接受けない財やサービスについても値上げの動きが徐々に広がっている。原油価格が横ばいで推移するという条件のもとでは、コア CPI 上昇率は当面 2%台前半で推移することが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。